

シニアカーの事故防げ 県安協にシミュレーター寄贈

松山の病院



松山リハビリテーション病院と新居浜高専などが開発したシミュレーターのデモンストレーション＝21日午後、県警本部

シニアカー利用者の事故を防ぐと松山リハビリテーション病院が21日、新居浜工業高等専門学校などと開発したシミュレーターを県交通安全協会に贈った。木戸保秀院長は、高齢者の運転ミスによる車両事故に触れ「シニアカーではそ

のような事故を起こさせたくない」と訴え、安全利用の一助になることを願った。

シミュレーターは、ハンドルやアクセルレバーを操作すると、モニターに映る仮想空間が連動する仕様。シニアカーは歩行者扱いの

ため最高時速6キロの設計で、行き交う車両や歩行者に注意しながら横断歩道などを通過する。終了後にはヒヤリハットや信号無視の回数が表示され、該当場面を頭上からの視点などで振り返ることができる。

病院と高専は2024年に医療・福祉などの分野で連携協定を結んでおり、今回は神奈川県企業のプログラム構築で協力。高専の学生がハンドルなどとモニターを連動させる電気回路を制作し、病院は改良点などを助言し約1年半で完成させた。

県警本部であった贈呈式で県安協の加藤泰専務理事は、免許返納した高齢者や障害者にとってシニアカーは生活に必要不可欠だと説明。「交通安全教室などで活用し、事故防止に努める」と感謝した。

県警交通企画課によると、県内ではシニアカーを含む電動車いすの登録は9日時点で3563台。24年に車と衝突して死亡する事

故が2件あり、25年もミニバイクと衝突してけがする事故が1件あった。

(戸田丘人)